

「歩く県道・東松峠(越後街道)」

地域づくりニュース H30 Vol.2

たばねまつ

東松峠(越後街道)とは

東松峠は、会津若松市大町札の辻から新潟県新発田市に至る旧越後街道上にあり、会津坂下町と西会津町にまたがる峠道です。茶屋があった頂上からは、会津盆地が一望され彼方に磐梯山を望むことができ、会津に向かうものには、はじめてみる城下であり、去る者は別離の涙を流す峠でした。

東松峠の道は、現在、県道別舟渡線の一部となっていますが、車両での通行ができません。福島県では、これを「歩く県道」として整備・利活用し、地域の活性化に繋げる取り組みを行っています。平成23年度から補修作業を継続してきたことで、安全で歩きやすい道に整備され、地域資源としての魅力が高まりました。

東松峠の地域づくり検討会を開催

東松峠を活用した取組みをさらに発展させ、地域の活性化に繋げるために活発な意見交換を行いました。

「第1回「歩く県道(東松峠)」地域づくり検討会」

日時：平成31年2月19日(火) 10:00~12:00

場所：会津坂下町高寺コミュニティセンター

参加者：高寺地区地域づくり協議会、東松峠を護る会、会津坂下町議会議員、東北芸術工科大学大学院特別講師、会津坂下町、会津若松建設事務所 計27名

話合ったこと：① 今後の街道の管理について ② 高寺地区地域づくり協議会の活動について ③ 東松峠への案内の仕方について ④ 地域づくりについての意見交換



検討会の様子

① 今後の街道の管理について



次年度以降の「歩く県道(東松峠)」の維持・管理の仕方について説明を行いました。

東松峠において、予定していた整備は平成28年度に完了しております。次年度も雪解け後に現地調査を実施して、補修が必要な場合は補修規模の大小や専門的検討の必要性等を考慮し、状況に応じた対策工事を実施していくことで、地域のみなさんと共に東松峠を守っていきたいと考えております。

② 高寺地区地域づくり協議会の活動について



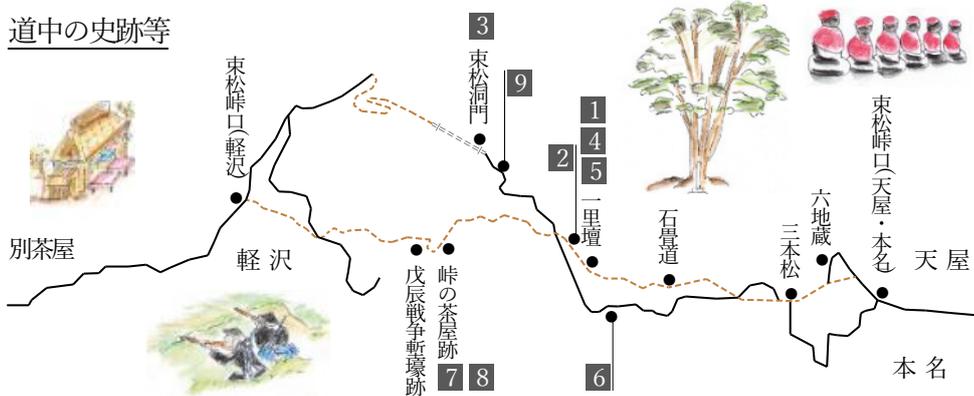
高寺地区地域づくり協議会から、今年度の活動と次年度以降の活動計画について報告をして頂きました。

今年度は、「秋のウォーキング大会」と「坂下中学校の学校行事としてウォーキングへの協力」が行われたそうです。ウォーキング大会の参加者は年々増加傾向にあり、坂下中学校の行事は今年度で4年目を迎えました。次年度以降も、これらの活動を継続していくとのことでした。

東松峠の位置



道中の史跡等



1 一里壇 2 紅葉時の道 3 東松洞門 4 一里塚手前の坂道
5 一里壇からの景色 6 ヒメサユリ(5月) 7 峠の茶屋跡 8 茶屋跡からの景色 9 粗朶柵工

③ 東松峠への案内の仕方について

東松峠には、完全な形で残る一里壇や、明治時代に地域の方々が人力で掘削し、貫通させた洞門などがあり、昔の人々の生活や歴史を感じられます。また、紅葉やヒメサユリなど季節の植物を楽しめ、一里壇や峠の茶屋跡では会津盆地と磐梯山を望むことができます。この峠の魅力を伝えようと、東松峠までの案内の仕方について話し合いました。参加者からは、ウォーキング大会や坂下中学校の学校行事などの経験から、多くの意見を頂きました。

頂いた意見を集約し、次年度以降の整備計画に活用していきたいと考えております。

～「案内の仕方について」参加者からの意見～

- ・案内と緊急時のため、道が複雑な東松峠口から三本松の広場までの誘導看板がほしい。
- ・車を止めやすくするため、駐車場を確保したい。
- ・東松振興センターと高寺コミュニティセンターに総合案内看板と簡易地図(パンフレット)がほしい。
- ・目標がないと疲れやすくなるため、目標地点(頂上や分岐など)までの距離や時間の看板が欲しい。
- ・歴史街道に配慮した計画(サインの統一や東松峠を連想できるモチーフの作成等)としたい。

④ 地域づくりについての意見交換

東松峠を活用した取り組みが、地域を魅力ある場所として、次世代に引き継いでいく一助となれるように、地域づくり全般について意見交換を行いました。

東松峠と他の資源を絡めることや周辺地域との連携を図っていきたいという意見を頂きました。また、「自分の生まれ育った地域資源を絶やさない」という地域の方々の思いも伺うことができました。

次年度以降も地域住民のみなさんや会津坂下町役場のみなさんと共に話し合いを重ねていきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

～「地域づくりについて」参加者からの意見～

- ・舟渡の一里塚や片門の薬師様、高寺山伝説など、他の地域資源も絡めた案内の仕方を念頭において、取り組みを進めていきたい。
- ・JR塔寺駅から西会津までというようにロングトレイルを歩く人もいるので、旧越後街道全体の広域的なイメージやブランディングが必要だと思われる。
- ・地元の人達は奉仕として関わっているため、できることは限られている。また、柔軟な発想が難しいため、イベントの時などにアンケートを取り、今後の取組みの方向性を決めていきたい。

